

消防だより

火の用心

Tokamachi Fire Department

No.97



令和元年12月5日

転倒

転落

子どもの

特集

緊急事態!

～知っておきたい子どもの救急～

誤飲

熱性
けいれん

「子どもの救急」には様々な原因や種類があり、あらゆる場所で発生しています。その中には、重傷や命に関わる事例も起きています。今号は、一番身近にいるご家族の方が「これは知っておきたい」をテーマに、予防法から事故や急病時の対策までお伝えします。

子どもの

子どもの事故による救急出動件数

「第1位」(7歳未満)

転倒・転落



転倒・転落事故は、7歳未満に多く見られます。転倒したことで脳にダメージを受けることがありますが、転落した場合はもとより、転倒の際も子どもの様子にはしばらく注意してみる必要があります。

現状・予防

管内では、階段からの転落が多い傾向にあります。過去に転落防止柵を乗り越えた事例もあり、目を離している時に事故は起こりやすくなっています。家庭内の身の回りの安全チェックをするとともに、自分の目で子どもの様子をよく見て上げてください。

鼻血が出た No!!

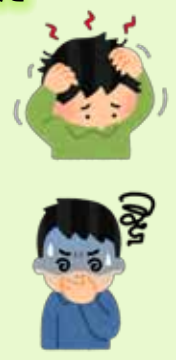


詳しい動画は下のQRコードから



座ったまま頭を前かがみにして、鼻を5分間つまみ止血をしましょう。上を向いて鼻をつまむ方がいますが、鼻血が喉に流れ、気分が悪くなったり、吐いたりするのでやめましょう。また、口の中に流れてきた鼻血は飲み込まないようにしましょう。

頭を強くぶつけた



出血がある場合、ビニール手袋があれば着用し、乾いたタオル(清潔なもの)で強く圧迫しましょう。

吐き気がある場合、吐いた物が喉に詰まらないよう、横を向かせて寝かせましょう。上を向いて寝かせると、窒息する可能性があります。

緊急事態

気道異物による

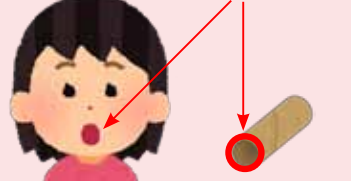
「窒息」につながりやすい

誤飲



誤飲事故は、生後7か月頃から急増し、4歳頃までよく見られます。特に10か月くらいになると、手にしたものでも口にも運ぶようになります。誤飲の危険性が高くなりますので、十分注意が必要です。

子供の口の大きさ ポイントは「4cm」!



直径4cmより小さいものは口の中に入ると言われています。トイレットペーパーの芯は直径4cm程度なので参考にしましょう。

誤飲してしまった



- ①「いつ」飲んだのか
- ②「何を」(製品名や大きさ等)飲んだのか
- ③「どのくらい」(個数)飲んだのか

この3点を確認して、速やかに医療機関を受診するか、119番通報をしてください。

熱性けいれんと思ったら

- ①どのくらいけいれんが続くか時間を計る
- ②けいれんの様子を観察する(目が一方に寄っていないか、片方の手足だけけいれんしていないか等)
- ③けいれんが治まったら、体温を計る

大きな声で呼びかけたり、ゆすったりせず、安静にして寝かせてあげましょう。けいれんが5分以上続く場合は、上記3点を確認して速やかに医療機関を受診するか、119番通報をしてください。

態

子どもの救急出動件数全体の

「6割」が熱性けいれん(7歳未満)

熱性けいれん



熱性けいれんは、7歳頃までに多く見られます。熱の上がり始めや下がりに特に起こりやすいです。熱性けいれんになると、意識がなく、名前を呼んでも反応はありません。通常の場合は、3分くらいでけいれんは治まります。



多くの場合は両方の手足をピンと硬くつまんだ後、両手両足をガクガクふるわせます。白目をむき、唇が紫色になることもあります。

急な事故や病気をした場合に、「救急車を呼んだ方がいいのか?」「今すぐ病院に行った方がいいのか?」など、判断に迷う時があると思います。夜間の急な事故や病気で迷った時は、「小児救急医療電話相談#8000」を活用しましょう(次ページ参照)。看護師等から受診の必要性や対処方法等について、助言を受けることができます。また、年末年始の期間は24時間態勢で電話相談窓口を開設しているため、昼間も含めて終日活用いただけます。

最後に

子どもは、大人と異なって明確に具合が悪いことを表現することができません。いち早く子どもの異変に気付けるのは、普段から一緒にいるご家族の皆さん、特にお母さんやお父さん、そしておばあちゃん、おじいちゃんです。

また、不慮の事故は、ちょっとした隙に起きることがあります。生活の中における危険を見つけ、「事故防止策をご家族で話し合う」、「事故や病気で急変した時の対応を理解しておく」など、今号でお知らせしたことを是非これからの日常における参考としていただければと思います。

子どもの安心安全のため 私たちができること



子どもの事故、病気は予防から

事故や病気の中には、少しの注意や心がけて防げるものがあります。身の回りを整理整頓し清潔に保つことや、床面の高低差をなくしたり転落防止柵を設置したりするなど、未然に防止するための環境づくりが大切です。

子どもに緊急事態発生!

まずは落ち着いて...

落ち着いて子どもの状態を観察しましょう。焦っている状況では間違った判断をしたり、普段どおりの行動ができなくなり、周りに人がいれば助けを求めた一つの方法です。どうやって対応すればいいのか、今子どもはどういう状態なのかを確認し、何をすべきか、どのような対処ができるのかを冷静になって考えましょう。

判断に迷ったら



救急

救急医療電話相談 小児救急医療電話相談

新潟県では、「救急医療電話相談#7119、小児救急医療電話相談#8000」を実施しています。これは、夜間に急な病気やけがをした時、すぐに

救急車を呼ぶべきか、また医療機関を受診すべきかなど、判断に迷った場合に、看護師等から受診の必要性や対処方法等についての助言を受けることができるものです。**IP電話などからは、025・248・7119**となりますので、お間違えの無いようお願いいたします。夜間、緊急時の際は、是非ご利用ください。

救急

救急車の適正利用について

で医療機関を受診したり、また関係者が連れて行くことができない場合は、介護タクシーなどを利用していただくことが望まれます。

先に述べたように、救急需要の増加から救急車の要請が重なり、救急車が全て出動してしまうこともある状況で、このように軽症者の搬送が増えることは、真に緊急な重症者が生じた場合に救急車が直ちに向かうことができない状況を生み出すこととなります。

救急車が適正に活用されるよう、「どうしようか?」、「どうだろう?」と119番通報を迷った場合は、上段の救急医療電話相談で確認してみることも必要です。

小児救急医療電話相談

8 0 0 0

※子ども（概ね15歳未満のお子さん）対象

相談内容

お子さんの急な発熱、急なケガ等に関する相談

相談時間

毎日（19時～翌朝8時）

救急車？病院？



救急医療電話相談

7 1 1 9

※大人（概ね15歳以上）対象

相談内容

発熱、頭痛、腹痛、吐き気など急な病気やケガ等に関する相談

相談時間

毎日（19時～翌朝8時）

夜間の救急、判断に迷ったら・・・



病院へ行く？
救急車を呼ぶ？

#7119

#8000

迷ったら・・・

経験豊富な看護師などが対応



受診の必要性や
対処方法等について助言します

緊急性がない



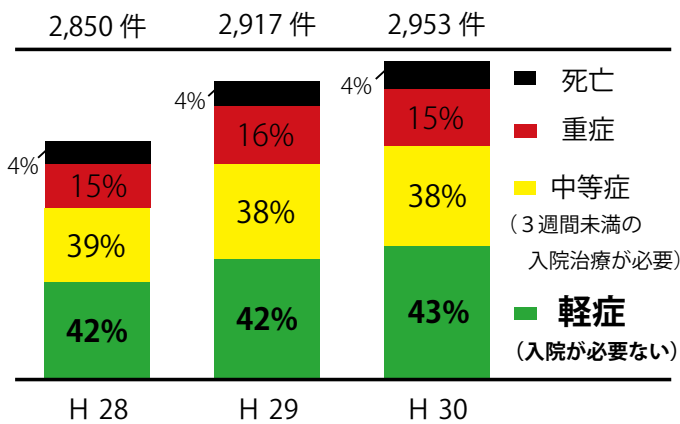
医療機関案内など

緊急性がある



119番へ!

【十日町地域の救急搬送に占める軽症者の割合】



【雪害用心・火の用心】



毎年、屋根の雪下ろし作業中の事故が発生しています。雪下ろし中の不慮の事故を防ぐために、次の事項を参考にしてください。

- はこの足元をしっかりと固定する。
- 雪下ろし作業は二人以上で行う。
- 一人で行う場合は、家族等に声を掛けておく。
- 屋根の下に人がいないか、十分に確認する。

忙しい時こそ心にゆとりを持ち、事故防止と火災予防をお願いいたします。

消防だより

火の用心



発行 十日町地域消防本部 〒948-0007 新潟県十日町市四日町新田4-4番地
編集 総務課企画広報係 ■電話 025(757)0119 ■FAX 025(757)8499
ホームページ http://www.tokamachi-kouki.jp/ ■E-mail tfd119@tokamachi-kouki.jp